

話題提供

櫻井基樹（社会福祉法人にりん草 生活支援センターにりん草 管理者・相談支援専門員）

（櫻井） はい、皆さん、こんにちは。

板橋区で相談支援専門員をしております、社会福祉法人にりん草、生活支援センターにりん草の櫻井基樹と申します。今日はよろしくお願ひいたします。座ってお話させていただきます。

私、板橋でさせていただいております。簡単に、まず板橋のお話をする前に、私、相談員として実務をやっていることのほうが多いです。今、96人ほど担当させていただいています。この数はとても多いので、これも地域課題なのだろうなと、制度課題かもしれませんが、何とかしたいなと個人的には思っております。

地図でいうと、23区の北側にある、城北エリアというところに板橋区はありまして、人口が55万人の都市です。人口規模は23区の中で7番目ぐらいだそうです。この人口規模、あと予算規模もそうなのですけれども、大体、鳥取県と同じぐらいのだそうです。それを考えて、今、現状の板橋区ってどうなのかなということ、ちょっと考える機会になりました。

障害者人口が、特に知的障害者の増える率が10年近くで64.6%と増えているのが、すごく特徴的かなと思ったりもしました。何でかなというのはちょっとわからないのですけれども。増加率のところ※印がついているのは、障害者人口と、あと難病のところに関しては、※印がついているのは、26年から28年に関してなんですけれども。知的障害、何でかな、発達障害のお子さんとかが増えているからかなとか思いつつも、病院関係があるからかな、でもそれだったら身体障害も、もっと増えてもいいよな、都営線が走っているからかな、でも、だからといって知的障害だけがふえるというのも変な話だよなというふうに思っ、なんでだろうと思ったりします。

板橋区、現在32カ所の相談支援事業所がありまして、その内の1カ所が基幹相談支援センターもしています。上の線が三田線の沿線、下が東上線の沿線で、板橋区、この2本が大きな移動の手段としてあるのですけれども、基幹相談支援センター、見てわかるとおり、北側にあるということでもあります。行政区としては、福祉事務所が3カ所あるように、三つに板橋、志村、赤塚とい

うような分け方をするのですけれども、先ほどの基幹相談支援センターは北側で志村福祉事務所管内にあるのですが、そういった意味で、ちょっと偏在しているのかなという気はします。あと、資料にはないのですけれども、恐らく障害者の数も、志村福祉事務所管内が多いのだろうなというところはあります。板橋区「手をつなぐ親の会」の会員がどういった割合で住んでいるのかというのは、3.11以降でちょっと調べた結果、志村福祉事務所管内、その管内に高島平団地という大きな団地があったりもするのですけれども、そういう影響かわからないですけれども、志村管轄のところ、会員さんがすごく多かったというところとかありますので、そういった意味で障害のある方が志村管轄は多いのかなという気はしております。

いろいろとありますけれども、子ども家庭支援センターというのは、障害児の虐待通告の窓口であったり、おとしより保健福祉センターは、65歳以上の、高齢の障害のある方の虐待の窓口でもあると、板橋区は福祉事務所や健康福祉センターも含めて、オール板橋で虐待とかにも取り組んでいるということです。

あと、支援級、普通の学校は潰れて閉校になってなくなっていったりするのですけれども、支援学級設置校は増えていったりとかしています。あと、特別支援学校の高等部就業技術科、志村学園というところなのですけれども、それが4年前にできたりとかというところで、学校なんかも多いかなというところが、地域特性としてあるかと思ひます。

あと、サービスが、ざっとこんな形で載っていますが、計画相談の達成率も載せさせていただきました。

障害の軽い方のサービスはちょっと飽和状態になりつつあって、障害の重い方のサービスが余り利用できていない傾向を感じます。というのも、移動支援100区内に130ぐらい事業所あるのですけれども、私のところもやっているのですけれども、その1割をうちの事業所がやっていると、時間数にして。だから、開店休業のところとか、そういう事業所もあるのだろうなと。うちのことで限って言えば、そんなに障害の重い方をたくさん抱えているわけではないから、障害の重い方が余り全体的に見ても利用できていないだろうなと仮説が立てられたりもします。あと、グループホームなども実は空きがあるというのもちょいちょい話がグループホームのほうから来るけれども、

大体そういうところは、障害の軽い方を対象ということで、そういった意味でいろいろな意味で飽和状態かなというのが板橋の特徴なのかなと思っています。

参考としましては、障害福祉計画と地域保健福祉計画を載せておきましたが、皆さんからすれば、お帰りになって自分の自治体の計画って何だろうという、ここにすごく自立支援協議会からこういった計画につながる街づくりにつながるエッセンスがあるかと思うので、確認いただいたほうが良いかなと思いますし、後でもお話ししますが、やはりここにつながっていかないと、自立支援協議会っていけないのだろうなというのを、今回、登壇させていただくので改めて実感しました。あと、今年現任研修も受けさせていただいて、改めて「はっ、自立支援協議会、そうだよな」って、私も2期4年ほど部会員をさせていただいているのですけれども、ちゃんと考えてこなかったな、いかなんというところがあります。先ほど、東大和の齋藤さんもおっしゃっていましたが、形骸化してないかな、なんていう。まさに板橋区、みんな頑張っているのだけれども、形骸化していたのかなという反省も含めて、で、今何をやっているかというところで、ちょっとお話をしていきたいと思います。

自立支援協議会そのものは、5期10年目なのですけれども、4つの部会があります。相談支援部会、就労支援部会、障がい児部会、障がい当事者部会、さらには、高次脳機能障がい部会というのが平成25年から専門部会としてあります。これは、高次脳機能障がい部会に関して言えば、もともと板橋高次脳機能障がい関係者連絡会というものがあるって、自立支援協議会の中に組み入れられたという形なのですが、こういった形で運営しています。自立支援協議会は開催されています。でも、判を押したように、年に2回とか、年3回とかやって、役所の方がすごく優秀だから、決してこう滞りなくきっちりとは開催されるのですけれども、やはり参加するほうも、随分と久しぶりに来て、「何だったっけ」と、それで報告事項だけ聞いて、「ふんふん。でも、これこの前も話してなかったっけな」という典型的なのが、やはり板橋区はまだ達成率が9割ほどというところの、その計画相談の進捗率、「これどうするのよ」とか、「セルフプランでいいのかよ」というようなお話とかをする中で、「何かこの話前もしたよな」というのが繰り返されていたようなものがあるわ

けです。それは、部会員の一人として私にも責任があることなのですけれども。

運営組織図として、これのもうちょっと細かくきちんとしたものが区のホームページにも載っているのですけれど、やはりこの協議会本会がその意見を提言していくと、障害福祉計画に意見を提言していくというのがあります。そこから地域保健福祉計画につながっていくと。でも、その前に個別支援会議等の課題ニーズを吸い上げていこうよというところが、理念としてはこうやって図式化までもされているのですが、それをまだ具体的に行動を移せていないのが、はずかしながらの板橋区の現状だろうなと思います。

そんな中でも、平成24年10月から相談支援部会の下部組織として、相談支援事業所実務担当者会という形で毎月開催していました。始まった当時は、9事業所だったかと思います。私はこの半年後ぐらいから、関わらせていただいているのですけれども、このときでも10事業所なので、今、32事業所まで増えました。ただ、32事業所全部が参加しているかという、決してそうではないという意味で、この実務担当者会自体も魅力あるものに、どうつくってイけるかなというのを、考える一人でもあります。当初は司会とかというのを一緒にやっていたりとかしたのですけれども、議題は制度についての運用とか、留意点、学習会もやりましたし、福祉事務所の方にきていただいてQ&A方式でやりとりしたりとか、というのもしました。もちろん、計画作成時のモニタリング時の悩みとか、進め方や事務手続について確認していくとかありました。本当に、この24年、25年ぐらいとかというのは、何だろうって手探りな状態。この段階で、先ほど東大和さんは、じゃあ、どうしてたらいいのだと、がちで話し合っていたからすごくいい先ほど報告があったなと思って、板橋は自分も含めて、どうしていったらいいのだろうという悩み悩みながらやっていった25年度で、26年度、「さあ、いよいよお尻に火がついて、後1年でどうするんだ、全然達成率が」というような中で、何かとりあえず質より量的な形で急いでやっていった、そのときに、手続的な問題だったりとかというのが、正直多く時間を割かれていたかなというのが、僕の記憶に残っているところです。特に、福祉事務所が3つあって、同じような事例で同じように申請しても、計画書式がこちらの福祉事務所ではオーケーで、こちらの福祉事務所では違うという、それ

こそ例えばですけれども、短期入所を定期的に使うので、計画に載せておいたら、こっちの福祉事務所では、「そうやって櫻井さん載せてください」、「ああ、わかりました」。こっちの福祉事務所では、「いや、短期入所はあくまで緊急のときに使うので、載せないでください」というふうに言われてしまったりと。「いやいや、このご家族、ご本人にとっては必要なんですけれども」、「いやいや」というようなやりとりで、ちょっと福祉事務所によって、制度に対する解釈とかが違ってというところのすり合わせが、こういった相談支援の実務担当者会で行われていた、というような気がします。もちろん、制度そのものへの周知のためのチラシ・リーフレットづくりですとか、さすがに今でこそ、ほとんどなくなりましたけれど、始まった当時は、相談員何者ですかというようなところは、どこの地域にもあったのかなとは思いますが、それを解消するための、チラシ・リーフレットですね。そもそも、ご利用者さん、ご家族も「櫻井さんのことは知ってるけど、何」というようなのが続いていたのを解消していこうという、なんか模索していたなというところで思います。でも、もちろん困難事例の検討もそうですし、あと、そもそも相談支援の業務とは、相談支援専門員のあり方とは、というような議論もときにはありました。やはり、いろんな事業所さんいらっしやって、介護保険等々でやっていた事業所さんからは、採算性が取れない中でというところとかというお話があって、僕なんかはやはりそういうことも考えていかななくてはいけないのだなと思いつつも、でも、やはりあり方としてご本人のために、家族のためにというふうな思いで、相談支援専門員って何ができるのかな、どういった役割なのかなというのを常に悩んでいた中で、こういった実務担当者会でお話ができたとはいえずぐく支えになっていたと思います。

そうは言っても、今、板橋区、基幹相談支援センター、今年度からできました。当初は、それで区内3カ所に職員3、4名体制をつかってやっていこうというところだったのですけれども、残念ながら、昨年度それでは予算がつかないということで、昨年度スタートできず、1年後の今年度ですね、28年度に規模を縮小してスタートしました。3カ所から1カ所になり、職員も常勤1名、非常勤1名という形ではありますけれども、まずスタートさせようという形になりました。それまでが、実務担当者会も輪番制で司会をやったり、

記録を取ったりとやったのですけれども、基幹相談支援センターが実務担当者会を活性化してやっていこうと。あと、相談支援体制を確立していきたい思いから、ここに相談すれば何とかなるというような、いわゆるワンストップの体制を目指していこうよというところで、今、始まっています。

相談支援部会も行政のお膳立てのようなものからの脱却を目指して、今、準備会という形で行っていたりもして、少しずつ変わろうとしているというのが今の状態の形です。なぜ、特にそういう話になったかということ、民生委員の方とかすごくお忙しいのに来ていただいているのに、意見をお願いしたら、「いや、勉強不足で何もしゃべれません」これではもったいないなど、うまく活用したいのに、それにはどうしてたら良いかなという中での、準備会を開催して改善を図り始めたというところでは、基幹相談センターのイメージ図はこういった形でやっています。目指していく形として、やはり実現できていない一人一人のニーズ、当事者や相談支援専門員が困っていること、制度と制度、世代間の受け渡し・狭間、「これらが地域の福祉課題ですよ」という話で、ここまでできています。

特に、もう少し具体的に言うと、なかなか教育関係のほうから情報をいただけない、話を持っていっても教育委員会に行ってほしい、教育委員会の許可がなければ、みたいな話もあったりとか、あるいは、65歳を超えて介護保険の利用になったときのそういう受け渡しみたいなどころでの、まだまだちょっとごたごたしているところがあるので、改めて確認していきたいなというところがあります。

あと、本人、家族の要望を吸い上げる形で実務担当者会で行っていきなという思いがあります。それを、どう、これから相談支援部会、自立支援協議会本会に挙げて課題解決を目指していくかというところ、それを区民のニーズに即した障害福祉計画に反映させていきたい、そういう思いがあります。ですので、こういった形で実務担当者会で吸い上げて、相談支援部会そして本会に持っていくという形です。こういう形にしていきたい思いがあります。

どういう地域にしていっていいか、それこそ沖倉会長から、今回やるのに当たって、「どういったことを大切にしていますか」というお話があったのですけれども、残念ながら、つい先日の相談支援部会があったときに、「板橋区は何を大

切にしているんでしょうね」と、「僕、いろいろこれにあわせて調べたけれどわからなかったんです」と投げたら、みんながふふふという笑いでいってしまった。でも、「そうだよね櫻井さん、それでは、いかんよね」というところで、理念とか、そういう、いわゆるビジョンみたいなものは、先ほど言った福祉計画とかで反映されているから、そのビジョン・ミッションは見えているから、どういうポリシーをもってやっていくのだというところを、改めて考えていかなければということ、ちょっと再認識させていただけたかなと思います。その中で、私自身が、個人で体験した事例の中から、こういった地域になっていったらいいのかなと思う事例をちょっと紹介して、今日は終わりにしたいと思います。

まず、お一人が、自閉のある方で、お母さまが急に介護施設利用になって、そうしたら、施設という選択肢もあったのですが、何とか2カ月間私もヘルパーとして動いたりしながら、グループホームにつながりました。それから2年たって、そのグループホーム、商店街の中にあるのですが、土日の週末のお昼は食事提供ができませんというグループホームはよくあるかと思うのですが、ホームの隣のスーパーのお総菜コーナーに行って、天井を毎回買っていた。常連なので店長さん始め、そのAさんの存在を認識して、週末のお昼時は天井を切らさないように用意してくれている。天井が売り切れの際は、総菜コーナーでご本人、「天井ください」と注文するのですが、注文に応じて天井を作ってくれるし、場合によっては、揚げたてが食べられて、本人満足していると。何が言いたいかというと、「知的障害者は」、「自閉症は」というふうに構えると、地域の人にも引いちゃうところがあるかと思うのですが、天井が好きな彼というか、その個人一人一人の顔が見える関係、こういった合理的、配慮的なことができることが、目指すべき地域なのかなと思ったりもします。

あと、もう一つの事例が、50代の女性で糖尿病の方で、グループホームに長く暮らしていたのですが、日中、通所先にもなかなか行けなくなって、「入所施設なのかな」、「どうなのかな」なんて悩んでいたところに、通所先ではグループホームの、グループホームでは通所先の不満を口にして、私のところに週に2、3度は泣きながら電話をかけてくるというのが、ずっと続いていて、「じゃあ、どうしようかね」というとこ

ろがありました。週末帰省しても、実家には90代のお母さんだけで、薬を飲み忘れて体調を悪化させる、救急車沙汰にもなるような方だったのですけれども、本人が、「入所施設かな、どうかな」なんて話をしていたら、短期入所の経験など模索していたら、本人は「グループホームやめる、お母さんと暮らす」という本人の決断があったので、私は全力で応援しますよとお話をして、そうしたら、書いてあるとおり、通院介助をつけたりとか、薬ポケットを本人が買ってきてやったりとか、宅配のお弁当にして糖尿病対応したり、今ではうそのように元気に毎日働いていて、先日も会ったときに、「櫻井さんそろそろグループホーム探して、お母さんが亡くなった後は、櫻井さんグループホーム探してね」と言っていたので、先日、障害者週間の記念行事で会ったときに、そう言われたのですが、やはり、そういった本人の意思って強いなと思います。それを大事にしていることが、私たちの仕事なのだろうし、そういう地域にしていかなければいけないのだろうなと思います。半面、意思を伝えられる人は良いのですが、障害が重い方への意思決定支援とか、課題だろうし、そういったアセスメント力というのが問われるだろうな、そういう相談支援専門員の質というのが、問われるだろうなと思います。

あと、時間も大分なくなってきてしまっていてあれなのですが、やはり高齢期に向かった課題というところですね。課題Iの方は、グループホームの世話人さんがよくしてくれて、もう人間、最後はランチとおしっこは仕方ない。他の利用者に他害がない限り見ますよと言ってきて、毎晩失禁している方なのですが、でも、そのホームのサービス管理責任者が本当によくやってくれて、頭が下がるけど、彼女がいなくなったらこの質が維持できるか悩ましいというところで。東京の福祉の有効求人倍率6倍と、人手不足が叫ばれていますし、あと、こういった小さな法人での小さな事業所での人材育成というのも課題なのだろうなと思います。

あと最後に、40代男性の方、生活介護を日中利用している方なのだけれども、家族環境によってご本人が介護しているというか、認知症のお母さまの徘徊を見守っていなければいけないというので、3年ほど前から通所がほとんどできない状態になってしまったと。最終的にはお父さん、お母さんが両方亡くなるまで、結局、何もできなかった。今では何とか週1回通所が回復するよう

になったのですけれども、何もできなかった、何かこう、行政側も「高齢のほうはやれ、障害のほうはやれ」みたいな、何か連携というのではなくて、押しつけ合うような感じがしてしまったというのが、そういう事例なので、これも地域課題なのかなと思います。

私の発表はこれで終わりですけれども、先ほど言ったとおり、板橋は何を大切にしていくといったときにぱっと出てこない現状。ビジョンは福祉計画とかで示されているので、何を大切にしていくかというポリシーをどうやって見つけ、それを守っていくかということなのだろうなと思います。

皆さんに対しての良い話題提供とはならないとは思いますが、板橋の現状を知る上で非常に良い経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

私の発表は以上で終わらせていただきます。どうもありがとうございました。